

## 2010（平成22）年度 岐阜大学公開講座／地域科学部 企画 学生プロデュース“市民のための環境講座”

# 育てよう！ “I ♥ 地球人” 考えよう！ 地球環境の未来

◇第1回 9月11日（土） 開講式 13:30 ～ 13:40

■学校では教えてくれなかった「環境問題」 学生プロジェクト“I ♥ 地球人”（近藤真庸ゼミナール）

□「環境問題」の動向と「環境問題」の見方 稲生 勝（環境思想論）

◇第2回 9月18日（土）

■映画『アバター』に自然はあるのか？——仮想世界の風景論 内田 勝（英文学）

□戦争は最大の環境破壊——『母は枯れ葉剤を浴びた』その後

野原 仁（メディア論）＋中村梧郎（フォトジャーナリスト）

\*第2回の講座終了後、ゲスト講師を囲んでの「自由な懇談の場」（約1時間）を用意しています。お気軽にご参加ください。

◇第3回 9月25日（土）

■世界は「環境問題」とどう立ち向かっているか 近藤 真（憲法学）

□「環境教育」で、“I ♥ 地球人”を育てる！ 近藤真庸（環境教育論）

◇第4回 10月2日（土） 閉講式 16:40～16:50

■エネルギーからみた地球環境の未来——低炭素社会に向けての挑戦 長谷川典彦（環境工学）

□ディスカッション：考えよう！ 地球環境の未来 学生プロジェクト＋受講生＋講師陣

●申し込み方法 受講を希望される方は、「住所、氏名、年齢電話番号」を明記の上、郵送・持参・FAX・E-mail のいずれかの方法により、下記へお申し込みください。

受講料納入方法（銀行振込）については、お申し込みいただいた後にご連絡いたします。

\*ご連絡いただいた皆様の情報は、公開講座の目的に必要な範囲内において使用致します。ご自身の個人情報の開示・訂正・削除を希望される場合は、下記にご連絡ください。

●申し込み期限 2010年9月3日（金）

●申し込み先 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1号

岐阜大学地域科学部 総務係

TEL：058-293-3003 FAX：058-293-3008

E-mail：chiiki@gifu-u.ac.jp

第1回 9月11日（土） 13:45～15:00／15:10～16:50

■学生プロジェクト“I ♥ 地球人”（近藤真庸ゼミナール）

学校では教えてくれなかった「環境問題」

みなさん、知っていますか？ いま、地球で起きている諸問題を。

例えば、熱帯林の破壊や砂漠化、南北問題、そして戦争や紛争、兵器による被害の数々。そして、すべてに共通しているのは、人が作り出したモノにより、大切な環境、動物や人の命までも脅かされていることです。

みなさんは、これらの問題を、自分たちとは無関係のものだと思っていま  
せんか？それは、ある一部の人が作り出した、ずっと遠くで起きている問題であり、自分たちは加害者でも、被害者でもないのだと…。しかし、実際は、すでに私たちは加害者であり、また、いつ被害を受けてもおかしくない状況にいます。

さて、今回のプログラムは、地域科学部で「環境教育」を学ぶ私たち学生が企画したものです。講師や受講生の方々の、貴重な知識や経験を、私たち若い世代へ伝えていただき、一緒に討論し、いまやるべき課題を見つけていく機会にしていきたいと考えています。

□稲生 勝：「環境問題」の動向、「環境問題」の見方

2009年12月にはコペンハーゲンで、地球温暖化問題について国際的な会議が開催されました。また、2010年秋には名古屋で生物多様性保全問題について国際会議が開催される予定です。国内的にも環境関連の法案が次々と審議され、また、エコポイントなどの対策も打ち出されています。しかし、暑い夏を風通しのよい家で過ごすのがだめで、より気密性の高い家にするのがなぜエコポイントの対象となるのでしょうか。ちょっと考えると疑問だらけです。公開講座の最初の講義ですので、環境問題をどうみるべきか、本当の環境対策とは何かを考えてみたいと思います。

第3回 9月25日（土） 13:30～15:00／15:10～16:50

■近藤 真：世界は「環境問題」とどう立ち向かっているか

1985年以降は、降り注ぐ紫外線の恐怖に「宇宙船地球号に穴があいた」と環境問題はすべての茶の間の話題となり、その年、法律学でも「公害法」に代わって「環境法」という専門分野が登場しました。院生時代は労働問題が専門でしたが、岐阜大学に就職してからは、長良川河口堰問題に遭遇して、以後25年にわたって環境問題とも取り組むことになったのです。1996年にニュージーランド、オーストラリアに留学した時にもそれぞれの国のダム問題の調査を行い、20世紀後半のダムと高速道路のあまりに多く作りすぎる建設問題は世界中の環境運動の黎明を告げるものでした。ダム問題や地球温暖化問題に端を発する1991年に制定されたニュージーランドの環境法は傑出したもので、1992年の地球サミットでのリオ宣言の予防原則を具体化し、日本やアジア諸国が現在どうしても実現しなければならない「手続的環境権」への緊急の課題を教えてください。ニュージーランド環境法のビデオを見ながら今日の私たちの課題を検討します。

□近藤真庸：「環境教育」で、“I ♥ 地球人”を育てる！

「環境問題」の何を学校が「教えない」のか？なぜ、市民のための「環境講座」が必要なのか？—専門講義科目「環境教育論」を担当して10年。「学校では教えてくれない”市民のための環境講座”」づくりの内容と方法について、学生と共に考えてきました。

昨年、私のゼミ生を中心に「学生プロジェクトチーム“I ♥ 地球人”」を結成。これまでの成果をもとに8つの「プログラム」にまとめました。今回、そのプログラムの一つ「公開講座」として実現したのです。

本講では、学生たちを“I ♥ 地球人”となるべく実践してきた、私の「環境教育論」10年の歩みのなかから、「環境教育」の内容と方法を“模擬授業”を通してご紹介します。

第2回 9月18日（土） 13:30～15:00／15:10～16:50

■内田 勝：映画『アバター』に自然はあるのか？—仮想世界の風景論  
ジェームズ・キャメロン監督の3D映画『アバター』（2009）は不思議な魅力を持った作品です。宇宙の彼方の星に築かれた資源採掘基地にやって来た主人公は、資源埋蔵地から原住民を追い払う任務を帯びながらも、緑豊かな自然と共に生きる彼らの暮らしに惹かれ、ついには原住民に味方して地球人と戦うこととなります。

ここで興味深いのは、主人公をとりこにする自然—すなわち多様な動植物にあふれた美しい原生林や、空中に浮かぶ突兀たる岩山といった絶景が、最新鋭のCGを駆使した架空の風景である点です。そのため自然を愛する主人公はまるで、仮想世界での冒険に熱中するあまり現実の生活をおろそかにするゲーム中毒者のようにも見えてしまうのです。

そんな主人公の冒険を3Dメガネ越しに眺める観客はいったい何をしているのかを考えることで、好ましい「風景」のイメージを介した人間と自然環境との関わりを探ってみたいと思います。

□野原 仁：戦争は最大の環境破壊—『母は枯れ葉剤を浴びた』その後  
ベトナム戦争が終わって36年、米軍の枯葉剤による被害はいまだに続いています。枯葉剤Agent Orangeの中に混入されていたダイオキシンが人体を蝕み、次の世代まで障害を背負わされています。

30数年間、そんな人々の年月を記録してきたフォトジャーナリストがいます。『戦場の枯葉剤』（岩波書店）、『新版・母は枯葉剤を浴びた』（岩波現代文庫）、『環境百禍』（コープ出版）の著者であり、数年前まで地域科学部教授として「メディア論・環境論」の講義を担当されていた中村梧郎氏です。その中村氏をゲストにお迎えし、作品の紹介とトークを通して、標記のテーマに迫っていただくことにしました。

「ベトナムに派遣されたアメリカ兵も枯葉剤に汚染され、いまもガンなどに苦しんでいます。初の海外派兵でベトナムに送られた韓国軍部隊も枯葉剤を浴びました。化学兵器としての枯葉剤は、敵も見方も関係なく人体汚染を引き起こしたのです。世界には現在でも戦禍にさらされている子供たちがいます。悲劇は繰り返されることのないようにしたいものです」（ホームページより引用）—中村梧郎氏からのメッセージです。

第4回 10月2日（土） 13:20～15:00／15:10～16:40

■長谷川典彦：エネルギーからみた地球環境の未来

—低炭素社会に向けての挑戦

「エネルギー問題から見た持続可能な社会」をテーマに、温室効果ガスを2020年で25%削減、2050年で80%削減という低炭素社会に向けてエネルギー問題をどうとらえるか、従来エネルギーの有効利用、再生可能エネルギーの可能性など、その現状と問題点を明らかにするとともに、循環型社会を目指すために、我々の生活の見直しなど、今何が求められているのかについても明らかにしていけたらと考えています。

また、発足以来、地域科学部の学生と教職員が取り組んできた「ISO」の実践を中心に本学部の「環境問題」への挑戦の一端を紹介します。

□学生プロジェクト＋受講生＋講師陣：

ディスカッション：考えよう！ 地球環境の未来